

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 令和6年能登半島地震義援金に対し石川県馳知事からの御礼状を頂戴しました

P2~P3 都道府県技師会 各地での取り組み (徳島県編)

P3 大規模災害時の支援人材育成講習会 (その1) を開催中

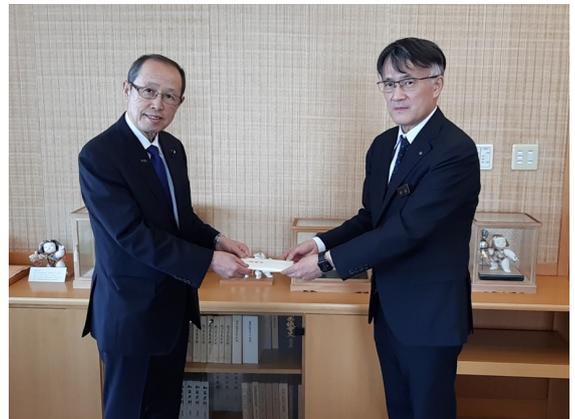
P4 ◆私たち、臨床検査技師の認知度向上のためのポスターの原案を募集します! ◆

令和6年能登半島地震義援金に対し石川県馳知事からの御礼状を頂戴しました

日臨技災害支援特設サイト「令和6年能登半島地震」に掲載されているように、石川県への義援金については皆さまはご存じかと思えます。この度、石川県馳知事から御礼状とともに義援金の分配計画書が届きました。

これは令和6年能登半島地震の災害義援金50万円を2月14日、石川県東京事務所（東京都千代田区都道府県会館14階）を訪問し、中谷安孝所長と今後の復興に向けて会談後、義援金をお渡ししたことへのものです。本来であれば石川県庁において馳知事にお渡ししたいところでしたが、災害対応に追われていることもあり、石川県東京事務所にお邪魔し、宮島会長より手渡しいたしました。

(事務局 広報担当 増岡 雅嗣)



石川県東京事務所にて
左：宮島会長 右：中谷所長

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、令和6年能登半島地震に際し、心温まる義援金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

お寄せいただきました義援金は、皆様のご厚志が十分に活かされますよう、義援金受付団体、被災市町などからなる配分委員会で配分を決定し、被災者の方々に順次お届けしております。被災地は、過疎化、高齢化が進展しており、生活再建への道のりは平坦ではありませんが、皆様のお気持ちで被災者の方々への大きな励みとなるものと確信しております。

今回の地震は、輪島市、志賀町で県内観測史上最大の震度七を記録するなど、県政史上未曾有の大災害となりました。県では、国や市町をはじめとする多くの皆様と連携し、被災者の救助、応急対策に全力を挙げて取り組んでまいりました。今後も、被災市町、被災者、事業者の声をしっかりと受け止め、一日も早く、被災者の生活と生業を再建し、能登の創造的復興の実現に向け、全庁総力を挙げて取り組んでいく決意であります。

このたびお寄せいただきましたご厚情に対し、略儀ながら書中をもちまして厚くお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

令和六年四月

石川県知事 馳 浩

謹白

都道府県技師会 各地での取り組み(徳島県編)

全国47都道府県それぞれに臨床(衛生)検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨床と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、小・中学生向け無料配布の職業紹介雑誌「徳島おしごと本」の取材を受け、臨床検査技師の仕事伝える徳島県臨床検査技師会の取り組みについて紹介いたします。

「おしごと本」掲載秘話

一般社団法人 徳島県臨床検査技師会
事務局長 湯浅 麻美

はじめは、地元徳島県のタウン誌などを製作している「株式会社あわわ」様から、職業紹介雑誌である「おしごと本」に臨床検査技師の紹介記事を掲載しないかとお話をいただいたことでした。この「おしごと本」は2019年に初めて製作・出版されたキャリア教育読本であり、一般販売はされていません。徳島県との提携で徳島県内の小学6年生と中学1年生に1人1冊ずつ無料で配布されています。



「株式会社あわわ」の方から「おしごと本」ができた経緯や想いを聞いたところ以下のような回答がありました。

徳島県は全国から見てもかなり少子高齢化が進んでいる県のひとつと言え、人口減少のペースは想定より早く、深刻な問題となっています。2018年に発表された人口問題研究所の推計では、徳島県の人口は2030年には65万人、2045年には54万人まで減少すると発表されました。その中でも若者の県外流出が多く、約6割以上が県外の大学へと進学し、そのまま県外に就職するといったケースが少なくありません。若者へ県内の魅力を伝えることが急務となってきている中、徳島県内でも一人一人の社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や信念を育てることを通して、キャリア発達

を促す「キャリア教育」に力を入れるようになりました。《未来の担い手》である子ども達への「教育」の場においても、地域ならではの産業や仕事の魅力を伝え、地域愛を育てていくことが大事なのではないかと考えました。そして、漠然と「地域愛」を訴えるだけではなく、現実的に魅力ある「仕事」がこの地域には数多くあることを子ども達に伝え、積極的に「地域で暮らす」「地域に戻る」「地域を背負って羽ばたく」という選択をする子ども達が一人でも増えることを目指し、本冊子の発行を企画しました。

私たちはもちろんのこと、病院で働いている人たちにとっては、「臨床検査技師」という職業が自然に受け入れられています。しかし、医療職が身近になかったり、病院へかかることが少なかったりする人たちにとって「臨床検査技師」は認知度がまだまだ低い職業です(図1)。

今年のはじめに、女優の波瑠さんが「グレートギフト(2024年)」というテレビドラマで病理解剖に携わる臨床検査技師の役を演じていました。その他にも「監察医朝顔(2019年、2020年)」で俳優の中尾明慶さんが、「アンナチュラル(2018年)」で女優の市川実日子さんが、「フラジャイル(2016年)」で俳優の野村周平さんが臨床検査技師を演じていました。いずれも、解剖に携わる臨床検査技師として出演されており、臨床検査技師に焦点が当たるテレビドラマとしては病理検査関連のものが多いようです(看護師や他のコメディカルの出番が少ないから?)。これらは、漫画が原作となっているものもあり、臨床検査技師の認

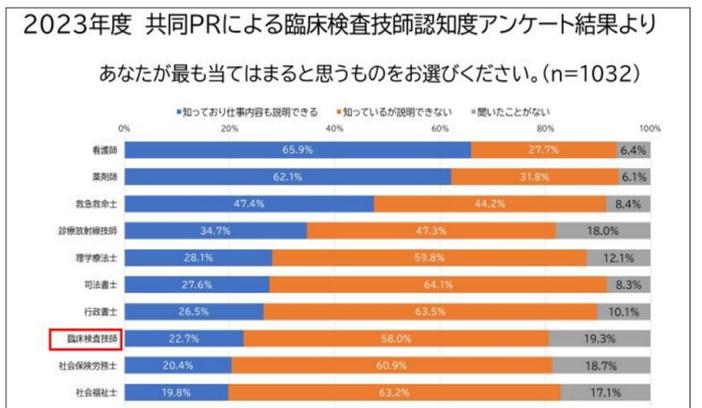


図1:臨床検査技師の認知度

知度向上に役立っていたのではないのでしょうか。ただ、最近ではテレビ離れと言われる時代となっていますので、以前ほどの効果は期待できないかもしれません。やはり、「おしごと」について考える時間に、手に取って見ることができるということはとても貴重であると思います。

12月25日に徳島県臨床検査技師会の理事会で「おしごと本」への掲載申込について承認がなされた後、取材カードの記入などによる事前取材があり、2月14日に1日かけて徳島大学病院で取材となりました。掲載内容は見開き1ページで、左側に微生物検査担当の臨床検査技師を主軸として紹介記事を掲載し、右側にその他の検査として病理検査、生化学検査、一般検査、超音波検査、採血検査などを紹介しています。徳島大学病院の各検査領域の皆様にご文章を考えていただいたり、写真に映るモデルになってもらったりしました。取材日当日は、日臨技理事である藤田理事が取材者の方と院内を回って案内していただきました。プロの方が写真や記事の構成を考えてくださるので、大変スムーズに進んだようです。その後、編集者の方との打ち合わせ、誌面の校正と進んでいき、2024年の4月に徳島県下の小学6年生および中学1年生へ向けて、およそ1万4,000部が配布されました。

掲載料は一年度で330,000円（税込）です。やや高めな印象ですが、臨床検査技師を世の中の多くの人に知ってもらうため、また、現在、日臨技でも認知度向上を謳っていることもあり、必要経費であると判断されました。来年度以降の継続に関しては、今年度の発行後の様子や今後の県技師会の予算を見ながら決定していくこととなっています。なお、高校生向けの職業紹介本もあり、そちらでの掲載も検討されています。

ちなみに、日臨技でも臨床検査技師紹介記事の雑誌掲載が行われており、「Wedge」という雑誌の2023年



©あわわ

12月号と2024年4月号に紹介記事が掲載されています。また、学生向け仕事紹介本としては、宝島社出版の「将来が見えてくる！日本の給料&職業図鑑Special」で臨床検査技師が紹介されています。学生向け仕事紹介本の販売価格は1冊1,500円～2,000円程度となっており、手に取る人数を考えると、「おしごと本」の県下すべての小学生・中学生への無料配布というのはメリットが大きいように思います。

法改正により2021年10月から臨床検査技師の業務範囲が拡大されましたが、臨床検査技師を目指す人が増えれば、その分、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアも推進しやすくなるのではないのでしょうか。

徳島県では、今後も臨床検査技師を多くの方々に広く知ってもらうため、引き続き広報活動に尽力して参ります。最後となりましたが、取材・記事掲載に際しご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

大規模災害時の支援人材育成講習会(その1)を開催中

大規模災害時には会員施設における臨床検査機能を維持することの他、被災地の求めに合わせてJ-MAT（日本医師会）や日本赤十字等と共同し、活動できる臨床検査技師が必要となります。本講習会は、いっどこで起こるかかわからない災害に備え、全国的な支援人材の育成を目的としています。臨床検査技師として災害対策本部で支援活動ができる知識の習得を目標とし、大規模な災害発生時における対応の原則・概念、情報管理や資源管理に関する知識を学んでいただきます。

研修会・学会検索
事前申込

会期：令和6年4月1日（月）～10月31日（木）
会場：Web開催（日臨技Web研修会システム）

お申込等詳細は当会HPをご覧ください。
←のバナーから検索いただけます。

◆私たち、臨床検査技師の認知度向上のためのポスターの原案を募集します！◆

昨年、一般国民1,000名へのアンケート調査を実施したところ、私たち臨床検査技師の認知度は22.7%でした。患者や健診受診者の皆さまを通して臨床検査技師を広く知ってもらいたいと考えました。

【目的】 一般国民への臨床検査技師の認知度向上

【実施方法】 検体採取や生理検査の際、患者や健診受診者に声掛けし、職種である臨床検査技師を名づけることを継続的に実施する。

【応募要領】

①募集期間：2024年4月1日（月）～5月31日（金）

②想定印刷サイズ：A3またはB4

③掲示場所：検査室事務室、採血ブースのバックヤードなど

④内容：ポスターの原案及びキャッチコピーを募集

臨床検査技師の認知度向上を喚起するもの、イラストや写真（注1）、スローガンなど自由に組み合わせ可（注1：ネットからの画像やキャッチコピーの転用に注意、原則利用不可、二次利用などの使用許諾が証明できるものは可）

⑤ファイル形式：PowerPointまたはWORD

⑥選考基準：日臨技広報委員会にて選定、執行理事会及び理事会を経て決定

⑦表彰（賞金）：最優秀賞1作品 10万円 優秀賞2作品 3万円

⑧応募書類：下記メールアドレスにメールにて依頼

⑨応募先：masuoka-masatsugu@jamt.or.jp

問い合わせ

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

担当執行理事 宮原 祥子

事務局 広報課 増岡 雅嗣

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-10-7

TEL 03-3768-4722

FAX 03-3768-6722

E-MAIL masuoka-masatsugu@jamt.or.jp

（編集後記）会報JAMT5.15号をお読みいただきありがとうございます。

先週末に、石川県金沢市で開催された第73回医学検査学会に参加してまいりました。

金沢駅周辺の3つのホテルと音楽堂、駅前地下のおもてなしドームを会場として開催され、駅周辺ではネームプレートをぶら下げて移動する臨床検査技師の姿があふれていました。昨年の中部圏支部学会も1つのホテルと音楽堂で開催されましたが、人の数は比べものにならないほどでした。街行く人々は医学検査学会が臨床検査技師の学会であろうとは知る由もなかったでしょう？

能登半島地震のDVT検診の報道やドラマで臨床検査技師の名称を耳にしますが、自分自身は同職のため食いつきますが、認知していない人はどうなのでしょう？検査技師の就職先や仕事内容は多岐にわたっています。それぞれの仕事場で一般の人と接するとき職種名を名乗って必要な職業として認知度を高めていきましょう。

最後に被災地の復旧・復興はまだまだこれからですが、心よりお祈り申し上げます。

（棚村）